



決戦のとき、迫る——
大坂夏の陣 道明寺の戦い



特集
鬼小十郎まつり

戦国の世、再び甦る よみがえる

10月7日、第10回鬼小十郎まつりが開催される。メインイベントである「大坂夏の陣〜道明寺の戦い〜」は、二代片倉小十郎重長と真田幸村の激突を再現する。白石城本丸広場を舞台に、片倉鉄砲隊の火縄銃、真田忍者隊の演舞、片倉弓隊の射的、そして甲冑武者約60騎の合戦シーンなど、見どころ満載の一大歴史絵巻が繰り広げられる。

昨年は約9,000人が白石城に来場。会場では、市内外の飲食店や企業などの出店ブース、甲冑試着などの体験型ブース、ステージイベントなど、さまざまな催しで賑わいを見せた。「道明寺の戦い」では、緊迫感と臨場感あふれる戦いと演舞に、歓声とどよめき、拍手など喝采を博した。

白石市の一大イベントとして賑わいを見せる「鬼小十郎まつり」。近年は、駅前通りの一角「すまいるひろば」を中心としたイベントにも力を入れ、賑わいは白石城から市内各所に広がりを見せている。しかしその裏側では、実行委員会をはじめ多くの方々の情熱と尽力がまつりを支えている。

今号では、10回という節目を迎える「鬼小十郎まつり」について、発足当時から指揮する実行委員長と、「道明寺の戦い」を取り仕切る道明寺部会長に話を聞いた。

【大坂夏の陣〜道明寺の戦い〜（あらすじ）】

慶長20年（1615年）5月5日、伊達勢は道明寺口に集結し、片山に布陣。翌6日未明から開始された戦闘において、片倉小十郎重長率いる片倉隊は、攻め寄った大坂方の後藤又兵衛勢を迎え撃った。後藤に加勢した薄田隼人正、後藤又兵衛を鉄砲で討ち取り、真田幸村率いる真田隊と大激戦となった。

この日、片倉隊は90を超える兜首を揚げ、翌7日も60の首級を揚げる。この武功により重長自身は「鬼小十郎」の名を馳せ、天下に片倉隊、伊達勢日本一の評価を受ける。

大坂城はかくて落城した。

しかし、この決戦の裏側には、隠されたもうひとつの物語があった…